

白鷹町蔬菜園芸生産組合設立から半世紀 50周年記念「模擬競り」開催



9月6日、白鷹町蔬菜園芸生産組合(川井敬一会長)の設立50周年を記念して、エコープしらたかで野菜や果物の「模擬競り」が行われました。東根青果市場閉鎖後約8年ぶりに行われた競りは、一般のお客さまも飛び入り参加して行われ、競り人の掛け声に合わせてお目当ての商品を求める声で会場は活気にあふれていました。同組合は現在約100名の組合員で組織され、安全安心な農作物の生産に尽力されています。

安全意識を高めて災害をゼロに 白鷹町建設業労働災害防止大会



9月27日、パレス松風において第16回白鷹町建設業労働災害防止大会が開催されました。南陽市の佐藤病院の栗田征武先生より「働き盛りの心の健康」について講演があり、心の健康を保つことで注意集中力が保たれ、労働災害の減少につながるのお話でした。機械操作のきまり事を守らないことが大事故につながります。今後も高い安全意識を持っていただき、労働災害が起こらないよう願うものです。

収穫の秋 稲刈り体験

9月20日、町土地改良区とJA青年部が先生となり、鮎貝小学校の5年生24人が、鎌を使つての稲刈りを体験しました。5班に分かれて指導を受け、刈った稲を束ねるのに苦労していましたが、友達と協力したり、慣れてくると先生のように上手くなった児童もいました。

同日、ひがしね保育園の年長児も、もち米の稲刈りを体験し、小さい手に鎌を持つてみんながんばりました。中には勢い余つて尻もちをつく園児も。年中児は刈った稲を運ぶ作業を手伝いました。今年も美味しいお餅が食べられそうですね。

鮎貝小学校5年生



先生の指導を真剣に聞く児童。その目は真剣そのもの。



友達との協力で作業がスムーズに。

ひがしね保育園



上手にできるかな？



ひまわり組の園児とJA青年部、土地改良区のみなさん。

旭日双光章を受賞

新野晃敏さん(鮎貝)

平成25年春の叙勲において、新野晃敏さんが地方教育行政功労者として旭日双光章を受賞され、このほど記念祝賀会が行われました。

新野さんは、医師として地域医療に貢献する傍ら、平成6年4月から平成16年10月まで、県の教育委員を務められました。この間、第4次県教育振興計画の推進、第5次の同計画の策定に携わられ、教育環境の整備や学校保健の充実などに尽力された功績が認められての受賞となりました。

